

6月のまちの話題

焼き鳥の株秋吉グループ本部などが植樹

町内産の木炭が縁で町と森林整備協定を締結、向こう五年間

幌内オニキンベの沢の町有地で六月五日、福井県に本社を置き、焼き鳥店百二十店舗を展開する株秋吉グループ本部（島川正勝社長）や北海道林産燃料生産協同組合（新田勝正理事長・宇隆）など三社が主催して秋吉グループ創業五十周年記念植樹祭を行いました。

同グループは、中国産の木炭を使っていますが、島川社長は国内産の木炭が使えないかと、同じく主催者で親交のあった北海道JR都市開発株の瀬川修一社長に相談。道庁に向いた瀬川社長が新田理事長を紹介され、新田理事長は島川社長の要望に応じた木炭を生産し、昨年三月に初めて出荷しました。木炭が結ぶ縁で、創業五十周年記念の節目と地球環境保全を目指し植樹を行うことになったのです。

植樹に先立って町と三社が協定書に調印。向こう五年間、町は町有地一・九畝を無償で提供し、三社は五年間の植樹を行い森林整備を行うことになりました。調印後、宮坂町長は「社会貢献のフィールドとしてこの地を活用していただくことは、次世代へ環境の懸け橋になるとともに、皆さんと厚真町との友情が深まる」とあいさつ。

関係者約四十人は、〇・二畝にミズナラの苗木六百二十本を、クワを片手に額に汗を浮かべ植樹作業を進めていきました。

植樹をする島川正勝社長と宮坂町長



「ピー太の森」と名づけ看板を設置

毎週木曜日はあつままくらぶもぎたて市

もぎたて新鮮野菜を30~40種ラインアップ



あつままクラブの会員5人

農家の主婦で構成するあつままくらぶ（石橋実穂子代表）のもぎたて市が六月十八日に同会員の北島美保さん宅（表町）の倉庫でオープンし、開店を待っていたお客さんを会員の皆さんは笑顔で迎えていました。

平成十六年から始まったこのもぎたて市は、会員の畑で愛情込めてつくられ朝もぎされた新鮮野菜で、常時三十〜四十種類の新鮮野菜が直売され好評を得ています。代表の石橋さんは「新鮮で安全安心な確かな物をお届けすることをモットーとしています。お気軽にのぞいてみてください」とPR。もぎたて市は、十月十五日までの毎週木曜日、正午から午後二時まで開店しています。

花の絨毯今年も河川敷に

毎年、厚真新橋から厚真大橋までの厚真川左岸に夏から秋にかけてコスモスやひまわり花で彩られ行き交う人たちの目を楽しませてくれています。花フレンズ会員や防災無線の呼びかけで集まった町民約20人が、昨年秋に摘んだ種を、そよ風に乘せてふりまき、手際よく熊手で土をかける作業を行っていました。



新町運動広場パークゴルフ場に隣接しているパーベキューコーナーのコンロが老朽化したため、このほど新しく20台を設置しました。町が町内の業者に製作を発注したもので、大人6人がゆったりと使え、重厚感があり耐久性にすぐれ、また、木炭の火力が強いときは、網の高さを調節できよう工夫されています。パーベキューコーナーの使用の申し込みは、役場産業経済課商工観光グループ（☎27-2486）へご連絡ください。



新コンロを新町運動広場に設置



五月から六月にかけて村井弘さん（共和）の庭に紫、白、桃色の花をつけた深山霧島約五十本が見ごろとなりました。三十年ほど前に知り合いから小さな苗を譲り受け、村井さんが長年の間丹精込めて育てたもの。村井さんは「深山霧島は地名のとおり九州が原産。山一面に広がって咲いているというのを聞いたことがあるので、一度見てみたい」と目を輝かせて話していました。



気持ちよく田舎まつりを商工会女性部市街清掃町商工会女性部（小納谷順子部長）が六月十九日に二十、二十一の両日厚真市街地を会場に行われる第三十七回田舎まつりをきれいな会場で気持ちよく迎えようと清掃作業を行いました。約二十人の女性部員と呼びかけに参加した方々は、歩道の隅にたまった砂や埃を集めたり、ポケットパークに生えている雑草を一本一本丁寧に取り除いていました。

国家公務員の新人職員3人厚真で実地体験

4月に総務省、国土交通省、文部科学省に入省した国家公務員の新人職員3人が6月1〜5日まで間、本町でさまざまな職種の体験をし地方自治体の姿を肌で実感しました。体験は、本町の行政に限らず、炭焼き体験（宇隆・新田勝正さん）、酪農体験（厚和・堀弘幸さん）、こぶしの湯での接客体験など多岐。リーダーの中村友亮さん（総務省）は「地方自治体の縦割りでない凝縮された行政を見ることができた。地域の特色を見て、いろいろなことを体験できた有意義な時間でした」と感想を話していました。



堀さんから飼料の説明を受ける研修生



花で彩りイメージアップ官民一体で道道沿道を植栽

本年度から初めて厚真市街地環境整備の一環として道道千歳鶴川線の沿道の花の植栽が6月2日に行われ、西町・南町自治会員、町商工会員、各事業所員、町職員など約80人が官民一体となって作業にあたりました。開会式で古川副町長が「この事業が美しい街づくりと商店街の振興につながるきっかけになれば」と参加者にあいさつ。室蘭土木現業所により草刈りされた街路樹の下64区画に、マリーゴールドなど1900株を花フレンズの皆さんの手ほどきにより、見栄えるように手際よく植栽していました。

ビーチをきれいに。広がる輪

浜厚真海岸でのビーチクリーンアップが6月8日、同海岸で行われサーファーや町職員、新聞報道などでこの運動を聞きつけた約40人が海岸に漂流したごみや海岸に捨てられたごみ約430kgを回収しました。

この清掃運動は、札幌市内のアウトドアショップ「パタゴニア札幌」が地球のために行動する日（アースデイ）を合言葉に自然環境の保全のため毎年行ってきました。今年は、臨海地域のまちおこしを進めている役場若手職員のプロジェクトチーム「あたらしいなみ」が趣旨に賛同し町も共催で参画することになりました。作業に先立ち古川副町長が「この地区をまちおこしにつなげたいと思っている。皆さんの知恵と力を与えて」と参加者にあいさつし作業開始。4、5人のグループで拾ったごみをチェックしながら海岸一帯を清掃しました。山田忠男さん（浜厚真）は「新聞でこの運動を知りました。漂流してきたごみも多いですが、パーベキューをしたあとの網やレジ袋などが捨ててあるのが目立ちました。この運動が大きな輪になっていくといいですね」と話していました。



清掃作業を進める参加者

年賀寄付金の配分でベンチを整備

NPO法人YAGENフットボールクラブ（石塚東洋雄理事長）が、郵便事業会社が行っている年賀寄付金の配分金を受け6月下旬、浜厚真野原公園サッカー場に観戦用ベンチを整備しました。

年賀寄付金配分事業は、社会福祉や青少年の健全育成に努める団体に贈られるもので、同クラブは438万円の交付を受け、2段ベンチなど43台約600人分を整備しました。石塚理事長は「今まで観戦の際には不便をかけたが、この整備で改善されると思います。7月は週末に大きな大会があるので、気軽に足を運んでほしい」と話していました。



ベンチに座る石塚理事長（右）と長谷川専務

「野原公園でやってもおもしろいですね」

村上巧さん・朋子さん夫妻は、昨年9月に上厚真地区の分譲地に移住。自宅の一角にご主人がサーフショップ、奥さんが着物リメイク工房の店舗を開いています。そのご夫妻が、町内外の団体や個人の横のつながりを生かしたバザールを6月26、27の両日、自宅前で初めて開催し天候にも恵まれたくさんの来場者が訪れ、着物リメイク品をはじめ骨董や新鮮野菜など品数豊富な各店舗はにぎわっていました。ご夫妻は「予想以上のお客さまが来てくれて感謝しています。また開催していきたいし、野原公園でやってもおもしろいですね」と笑顔で話していました。



笑顔で接客する村上さんご夫妻（右）

万が一のときのために日々訓練

災害派遣時などに備えた陸上自衛隊第7師団第7飛行隊のペリコプター2機による離着陸訓練が6月30日、旧榎山小中学校グラウンドで行われました。操縦士の操縦技量を維持・向上を目的とした訓練で、丘珠空港を飛び立った2機のヘリは、時間の間隔を空けて同グラウンド飛来し旋回後、1機はグラウンドに着陸し間もなく離陸。もう1機は地面近くを静止する訓練を2度行いました。この訓練を見学したみつば保育園（佐藤泰夫園長）の園児は、園長と先生に付き添われ真近で見るとヘリコプターに歓声を上げていました。



旧榎山小中学校で訓練する自衛隊ヘリ

地場産にこだわり野原公園売店再開

町が出店者を募集していた浜厚真野原公園内の売店が6月23日に1年3カ月ぶりに再開し、臨海地域の貴重な店舗として国道の通行者やサーファーなど海岸利用者の利便性が高まりそうです。

オープンしたのは、頼めぐみ水産（佐々木俊之社長）厚真店。佐々木社長は「厚真産の野菜をはじめ、特産品のあづまジンギスカンなど地場産にこだわったものを陳列し、お客様の笑顔がこぼれる店になるよう頑張っていきます」と話していました。

営業時間は午前9時～午後6時で、定休日は毎週月曜日。



店を切り盛りする佐々木社長

富小児童避難訓練と消火体験

富野小学校（吉田裕二校長）で6月24日、避難訓練が消防職員の指導で行われ児童たちは万が一のときに備え、迅速かつ冷静に行動していました。児童たちには訓練の日には伏せられ、プレイルームから出火したと想定し、火災ベルがなる中担任の先生の誘導で屋外へ避難。上厚真分遣所の鳥井所長が「煙は死につながる恐ろしいもの。煙を見たらすぐ逃げる」と児童たちに注意を促していました。続いて、グラウンドで消火器を使い消火体験が行われ、山家零次くん（6年）は「教えられたようにほうきではくようにするとうまく消えた」と話していました。



落ち着いて消火作業にあたる女子児童

18種3300株の花で国道に彩り

浜厚真景観整備振興会（館山睿会長）が6月25日、野原公園に面する国道235号線の沿道約80mにポピーや姫ヒマワリなどの苗18種3300株を植え込みました。道路美化を目的としている室蘭開発建設部のボランティア・サポート・プログラムの支援を今年も受け、会員をはじめYAGENフットボールクラブ、町職員など約30人が参加。

参加した皆さんは、晴れ渡る青空のもと潮風を浴びながら花の背の高さや色合いに配慮しながら、花で彩られる国道になることを願い一株一株植え込んでいました。



連携作業で植栽する参加者

あなた好きなふる里の風景を!! 「あつまふる里写真館」の写真を集め

町では、町ホームページに「あつまふる里写真館」を設け、その写真館に掲載する写真を募集します。

厚真を離れふる里に思いを馳せる人や都会に住み田舎暮らしに思いをめぐらす人などに対して、厚真の懐かしい風景やすばらしい自然環境などを写真により発信します。

皆さんの好きな厚真の情景、四季折々の厚真の自然や催しなどの写真をお寄せください。

部門
厚真の四季折々の風景、自然、催しなど

写真の種類
デジタルカメラデータまたは同プリント（A4判以下）もしくはポジ・ネガプリント（八つ切り以下）
※プリント写真は、スキャン後に返却します。

応募にあたって
・謝礼はありません。
・ホームページに掲載するにあたって転写を禁止することを記載しますが、ホームページの機能上無断で転写される場合があります。

すのでご留意ください。

・写真は担当にお持ちいただくか、郵送、メールで応募ください。
・掲載には、写真のタイトル、撮影者（匿名、ペンネーム可）、撮影日、簡単な写真の説明なども記載する予定です。
・応募していただいた写真が複数の場合は、全部を掲載できない場合があります。

・公序良俗に反する写真は掲載できません。
掲載予定
本年9月ごろを予定しています。

募集期間 通年
応募・問い合わせ先
役場総務課総務人事グループ
☎059-1692 厚真町京町120番地、メールアドレス ouhou@townatsumag.jp ☎7-2322

